

ぶ け しゃ かい ま く あ

武家社会の幕開け

う じ が わ せん じん あ ら そ
—宇治川の先陣争い—



源氏同士の戦い
だった
宇治川の
先陣争い



平家追討ちのために
京都に一番乗りしたのは
木曾義仲



木曾義仲軍は
京都へ

平家方は
西へと
移動しました。



ところが
木曾義仲軍は
勢に乗じて
京都で乱暴を
働いたといわれ、



そのため朝廷は、
木曾義仲の討伐を
源頼朝に命じました。
そして源頼朝の弟
義経が大将として
派遣されました。



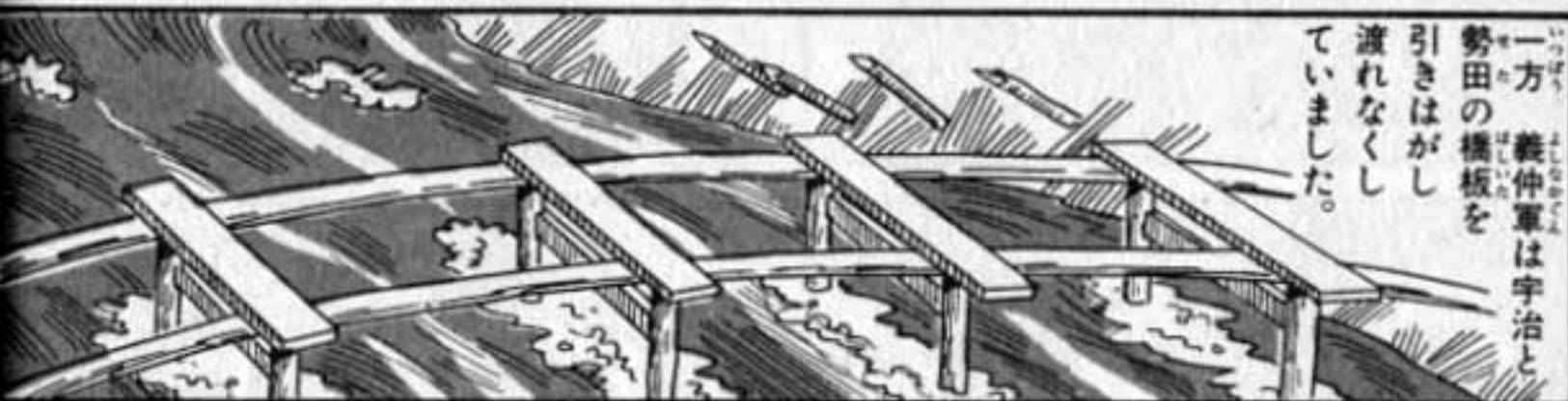
京へ入るには
途中
義経軍は
宇治川を
渡らねば
なりま
せん
でした。



宇治川は雪どけ水により
水かさを増し
濁流はこうこうと
激しく
流れて
います。



一方 義仲軍は宇治と
勢田の橋板を
引きはがし
渡れなくし
ていました。



この宇治川を
渡らねば
ならない



なんと
して
でも

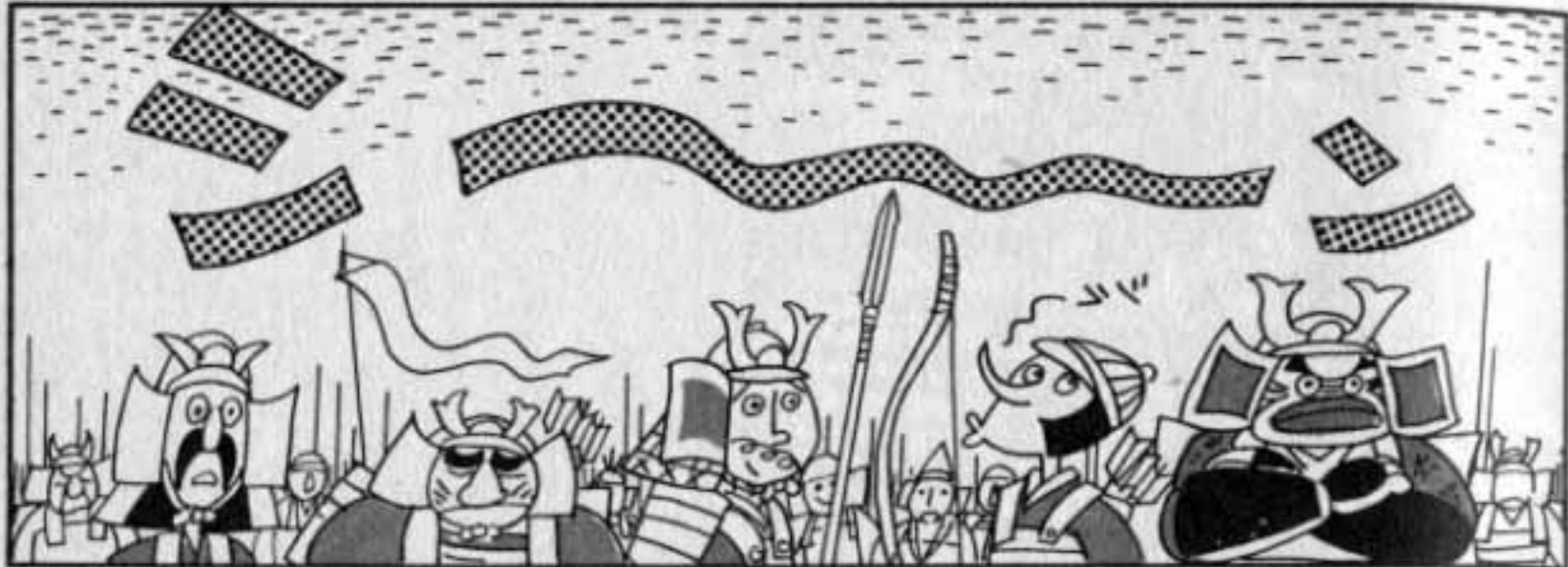


だれ
誰か



京都の攻防戦にとって宇治川は
重要な役割を果たしていきます。





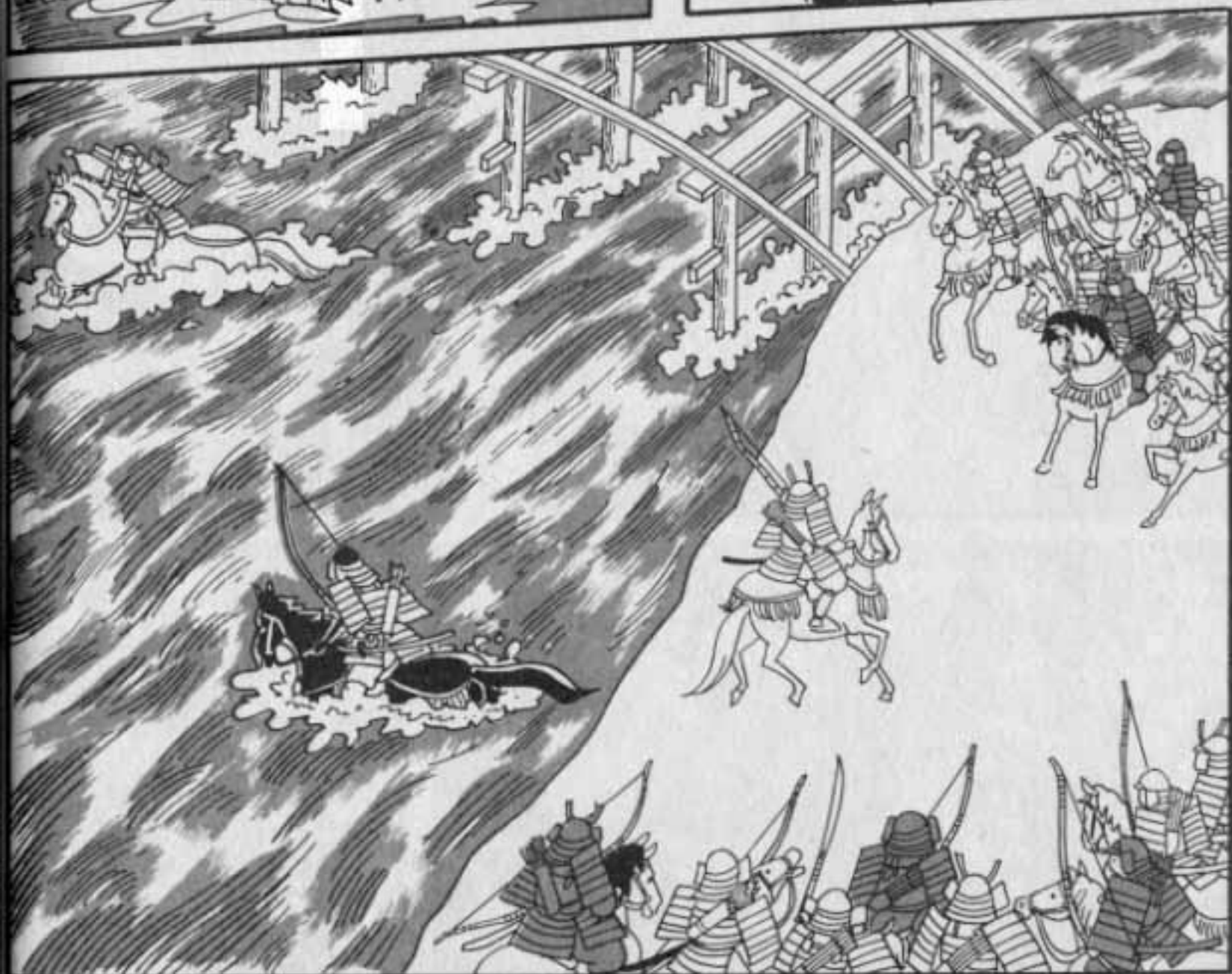
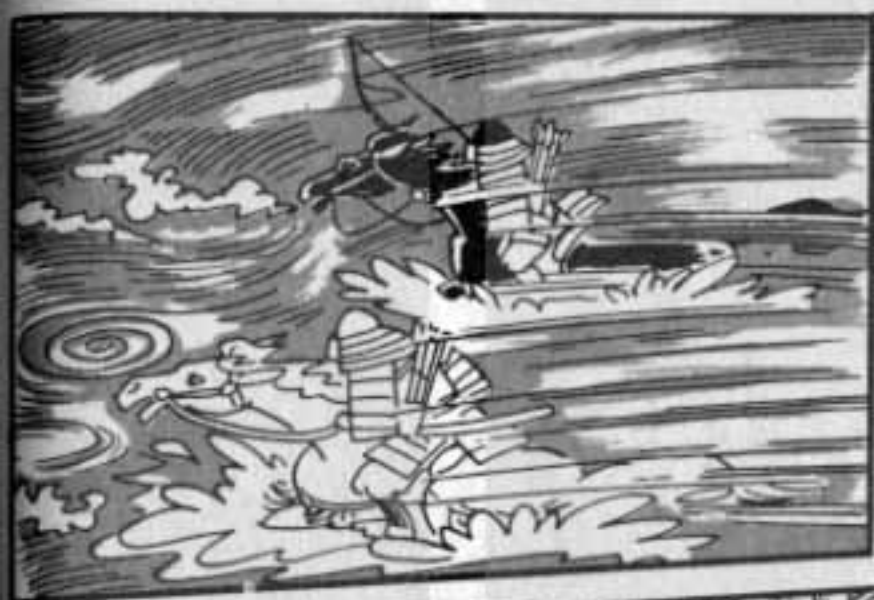
進み出たのは
二騎

佐々木
四郎と
生数寄に
ござる

梶原
源太と
摺墨に
ござる



いざ





ああっ
流木だ

おおつ
梶原の
摺墨が
流されるぞ

がんばれ
生数奇

おつたあ
ん！
おつたあ

おつたあ

佐々木四郎高綱
宇治川の先陣
なりっ



一方の梶原は
佐々木四郎の言葉
にまどわされ
遅れをとりました。



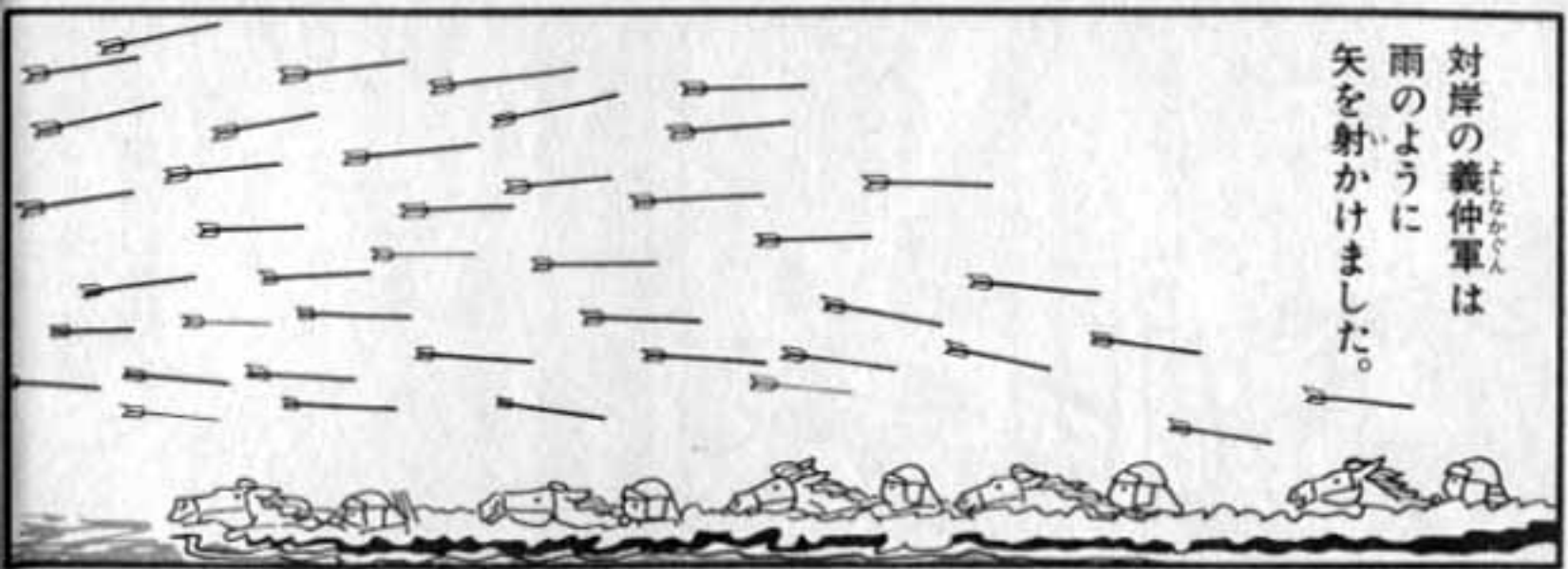
あっぱれじゃ
ものども
佐々木
四郎に
続け!!

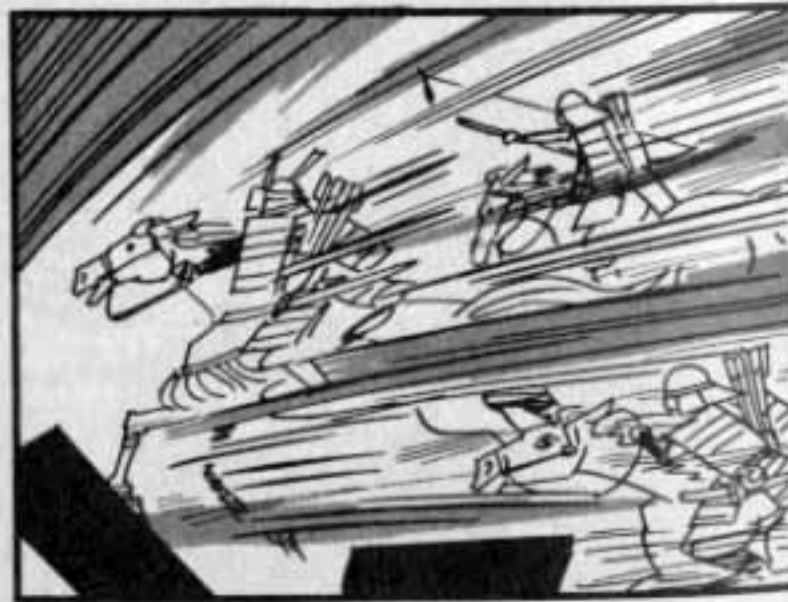
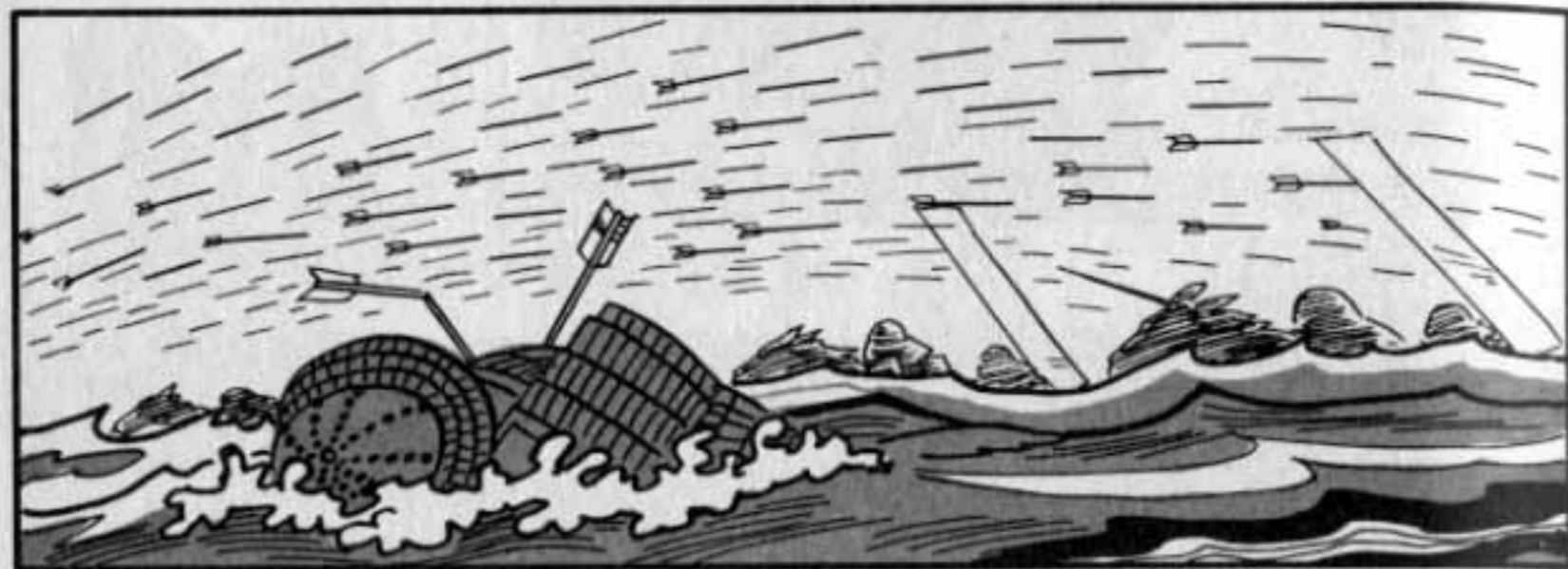


大喊声と共に
島山重忠の率いる
五百余騎が
飛びこみました。



対岸の義仲軍は
雨のように
矢を射かけました。





源平合戦の舞台、宇治。戦につきものの逸話が

ここにも伝承されました。

治承四年(一一八〇年)

源頼政は平等院境内の

「扇の芝」に果てたと

いわれ、また先ほど

紹介したように

寿永三年(一一八四年)に

源義経が木曾義仲と戦い

「宇治川先陣争い」が

くりひろげられたと

いうのです。

今、その記念碑が宇治川の中州の橋島に建てられています。



この後も宇治川では京都を守る側と攻める側で戦があったのだ有名なのが一二二一年の「承久の乱」だよ



とところで源平合戦の後の宇治はどうなったの



宇治の人々は恵まれた自然の環境を十分に活用して新しいことにチャレンジしたんだ

